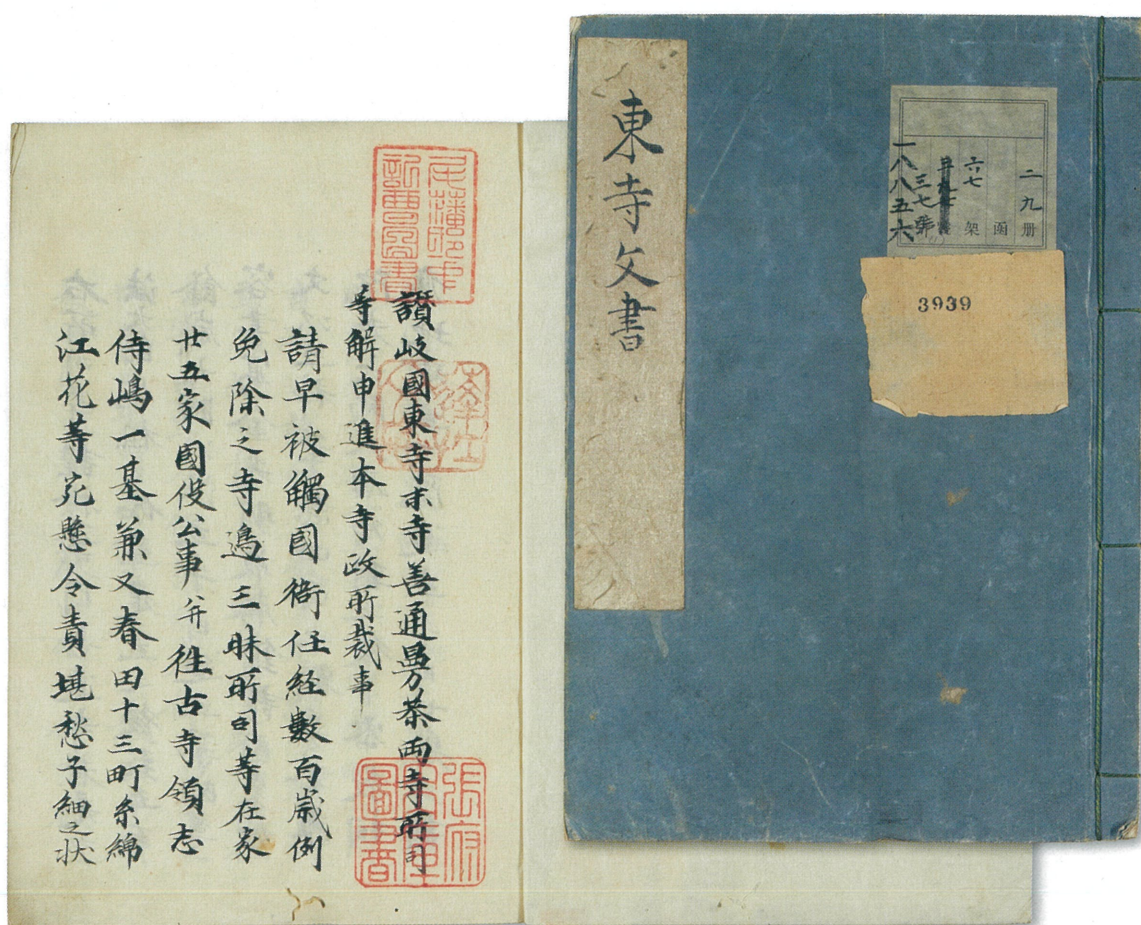


蓬 左

HÔSA

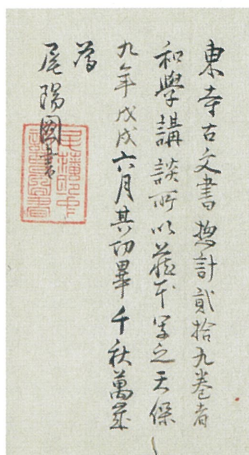


東寺文書

東寺文書

京都の東寺（教王護国寺）に伝来した文書類の総称で、東寺の法会仏事や莊園経営を中心とした寺院経済に関するものなど、古代から近世にかけての東寺の運営全般にかかわる内容の文書類である。貞享二年（一六八五）に加賀藩五代藩主前田綱紀が寄進した百の桐箱に収められた「東寺百合文書」もその一部であり、その他にも多くの「東寺文書」が各所に伝来・保管されてきた。

当文庫所蔵本は、この膨大な点数のある「東寺文書」のごく一部を収録した写本（全二十九冊）である。第五冊の奥書によると、和学講談所（以下、和学所）の蔵書本を写したもので、天保九年（一八三八）六月に計二十九冊を写し終えたと記されている。



東寺文書 第五冊 奥書

和学（国学）の講習兼編纂所である和学所は、奥州白河藩主松平定信の命によって書写された『東寺百合文書』（「白河本」、国立国会図書館蔵）を再転写した計三十冊の写本を所蔵していた（国立公文書館蔵）。このうち

の第十八冊を除く計二十九冊を写したのである。

各冊巻頭には江戸市ヶ谷の上屋敷にあった御記録所（御日記所）の蔵書印である「尾藩邸中記曹図書」、名古屋城内の御側御文庫（奥御文庫）の蔵書印である「張府内庫図書」が捺されている。また、元治元年（一八六四）頃に成立した江戸藩邸の文庫の蔵書目録である『御書物目録』（元治頃秘書目録）の中に確認できることから、これ以降、遅くとも天保十五年（一八四四）に江戸の御日記所が廃止されたのに際して、御側御文庫に移されたと考えられる。

書写作業は複数人であつたのか、和学所本の目録順には行われておらず（例えば、当文庫本第五冊は和学所本の第六冊にあたる）、当文庫本には冊番が記されていないこともあいまって、和学所本とは冊順が異なっている。また、内容は和学所本を忠実に筆写しているが、朱字で字の訂正が散見される。ただ書き写したわけではなく、文意をとりながら写していたことがうかがえる。

御記録所が藩や尾張徳川家の記録を編纂するためにに行っていた膨大な資料収集の一端を知ることができる資料といえるだろう。

【参考文献】

『愛知県史 通史編四』（愛知県、二〇一九年）
『愛知県史 別編 文化財四（典籍）』（愛知県、二〇一五年）
上島有『東寺・東寺文書の研究』（思文閣出版、一九九八年）

蓬左通信

令和五年度より研究が本格化した「銅人経」ですが、十二月に台北（国立故宫博物院・国家図書館）、三月に韓国（ソウル大学校奎章閣・国立中央図書館）で、調査を実施しました。

内容は同じでも、発刊（書写）された国・時代・来歴が多種多様なため、テキストを体系的に整理していく重要性を強く感じました。

また、リモートでの打ち合わせが多い研究チームのメンバーとも久しぶりに同じ空間で調査を進めることで、非常に有意義な機会となりました。

（蓬左文庫 星子桃子）



ソウル大学校奎章閣での調査の様子

名古屋市蓬左文庫 〒461-0023 名古屋市東区徳川町1001番地 TEL(052)935-2173 FAX(052)935-2174
ホームページ <https://housa.city.nagoya.jp/> 〈蔵書検索もできます。〉

ご利用案内

- 休館日／月曜日（祝日・振替休日のときは直後の平日）※変更することがあります。
令和6年12月16日（月）～令和7年1月3日（金）は特別整理・年末年始により休館します。
- 展示室／【開室時間】午前10時～午後5時（入室は午後4時30分まで）
- 閲覧室／無料 館外貸し出しはいたしません。
【閉架図書】午前9時30分～午前12時 午後1時～午後5時 【開架図書】午前9時30分～午後5時
【複写サービス】保存など支障のない範囲で、CD-Rからのプリントアウトまたはマイクロフィルム複写などの方法により行います。
電話・郵便による申込みも可。

